

信濃町の埋蔵文化財

平成18年度町内遺跡発掘調査報告書  
—清明台遺跡ほか—

2007

長野県

信濃町教育委員会

平成18年度町内遺跡発掘調査報告書  
—清明台遺跡ほか—

2 0 0 7

長 野 県

信濃町教育委員会

## 例 言

1. 本書は平成18年度に実施した長野県上水内郡信濃町における開発事業に伴う発掘調査、試掘調査、確認調査の報告書である。
2. 調査は国からの補助金交付を受けて信濃町教育委員会が実施した。
3. 本書の執筆、編集は調査担当者である渡辺哲也がおこなった。編集の補佐を藤田桂子がおこなった。
4. 本調査の遺物、実測図、写真等の資料はすべて信濃町教育委員会に保管されている。出土資料の記号は清明台遺跡が [06SM]、海端遺跡が [06UM]、照月台遺跡が [06SG]、柳原遺跡が [06YH]、一里塚遺跡が [06IR]、諏訪ノ原遺跡が [06SW] である。
5. 調査体制は次のとおりである。

調査主体者	信濃町教育委員会
事務局	教 育 長 小林豊雄 教 育 次 長 静谷一男 生涯学習係長 丸山茂幸
調査担当者	生涯学習係 渡辺哲也
発掘参加者	

(1. 清明台遺跡) 篠崎和美、高橋是清、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、山崎啓一、(3. 海端遺跡) 高橋是清、田村勇、深澤政雄、山崎啓一、(4. 照月台遺跡) 高田昭夫、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、(5. 上ノ原遺跡) 篠崎和美、藤田桂子、(6. 上ノ原遺跡) 篠崎和美、高橋是清、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、山崎啓一、(9. 東裏遺跡) 高橋是清、田村勇、深澤政雄、山崎啓一、(10. 柳原遺跡) 篠崎和美、高橋是清、田村勇、深澤政雄、藤田桂子、山崎啓一、(11. 一里塚遺跡) 高橋是清、田村勇、深澤政雄、(12. 諏訪ノ原遺跡) 高橋是清、田村勇、山崎啓一

※遺跡名の前の数字は図1と表1に対応する。

整理参加者 篠崎和美、藤田桂子

6. 清明台遺跡の一部の石器石材について、中村由克氏(野尻湖ナウマンゾウ博物館)から鑑定していただいた。
7. 調査をおこなうにあたり、次の方々には多大なるご協力をいただいた。記してお礼を申し上げる次第である。北村勝博、小林昭三、小林儀市、小林達也、小林美鈴、佐藤範征、塩浦綾子、清野真秀、西原幸男、吉川信夫、若月富夫、渡辺孝俊、信濃中学校、株式会社総合環境研究所、信越工業株式会社、中信建設株式会社、トレスホームズ株式会社、中興建設株式会社、長電建設株式会社、長谷川興業、藤沢工務店、有限会社古沢建築  
(敬称略)

## 目 次

I 信濃町の環境と遺跡	1
1. 自然的環境	1
2. 歴史的環境	1
II 調査の内容及び成果	1
1. 清明台遺跡(2006個人住宅地点)	2
2. 仲町遺跡	12
3. 海端遺跡(2006倉庫建設地点)	12
4. 照月台遺跡(2006個人住宅地点)	13
5. 上ノ原遺跡(2006研究所地点)	14
6. 東裏遺跡	16
7. 野尻湖団地遺跡	17
8. 東裏遺跡(2006個人住宅地点)	17
9. 柳原遺跡(2006信濃中学校地点)	17
10. 一里塚遺跡(2006個人住宅地点)	20
11. 諏訪ノ原遺跡(2006個人住宅地点)	21
12. 諏訪ノ原遺跡	22
写真図版	25

## I 信濃町の環境と遺跡

### 1. 自然的環境

信濃町は長野県の北端に位置し、新潟県妙高市と県境を接している。町域は東西方向に概ね3つの地形に分けられる。東部は第三紀鮮新世から第四紀前期更新世の堆積岩を主体とする基盤山地が占め、それらの上を斑尾山起源の安山岩溶岩が覆っている。野尻湖はこの基盤山地の中にあり、およそ7万年前にその原形ができたと言われる。西部は第四紀中・後期更新世の飯綱山、黒姫山の火山地形が占める。この東西の山地に挟まれた中央部に低地帯があり、主に後期更新世から完新世の湖沼・河川堆積物からなる丘陵、段丘、低湿地などになっている。

野尻湖を水源とする池尻川は関川水系に属し、北方へと流下する。一方、長野市戸隠を水源とする鳥居川は千曲川（信濃川）水系に属し、南東方向へ流下する。この二つの水系の分水嶺は柏原地区に位置し、その辺りはなだらかな高原状の地形となっている。こうした平坦な地形は内陸部と日本海側をつなぐルートとして古くから利用されてきたものと考えられる。

現在人々が暮らす居住域は標高700m前後の地域で、日本海側の気候に属し、冬期は寒冷で多雪、夏期は比較的涼で、避暑地として利用されている。

### 2. 歴史的環境

信濃町は前述のような地形の特徴により、日本海側と内陸部をつなぐ交通の要所にあたるため、古くから人々の往来が盛んであったと思われる。野尻湖の西側の湖底に広がる立が鼻遺跡はおよそ4万年前の狩猟・解体場遺跡（キルサイト）と考えられており、こ

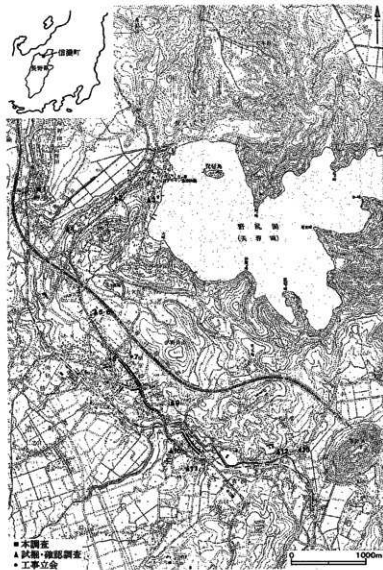


図1 調査地の位置（信濃町役場平成15年12月作成1/25,000地形図を使用）※番号は表1に対応

こがゾウの通り道であったことがうかがえる。国内有数の後期旧石器時代の遺跡が集中する地域であることから、遊動する旧石器人にとって交通の要所であったことは明らかである。古代の東山道支道が通っていたと推定され、また、江戸時代には北国街道が整備された。関川を境として信濃と越後の国ごがかがあったため、こうした歴史的な地理的条件も備えた地域でもある。中世の山城が多いことも交通の要所として争奪戦がおこなわれた地であることを物語っている。

信濃町には現在までに173ヶ所の遺跡が知られているが、時代により遺跡数の変遷にその特徴が見出せる。①旧石器時代の遺跡が集中する。②縄文時代では草創期、早期の遺跡数は多いが、前期以降の遺跡数は少ない。特に中期が少ない。③弥生時代、古墳時代の遺跡数も少ないが、平安時代になると遺跡数が多くなる。今年度の調査でも、この傾向を辿認する結果となった。

## II 調査の内容及び成果

個人住宅建設に伴う発掘調査と大規模開発に係る試掘調査・確認調査を対象として国庫補助事業を実施した結果、平成18年度は図1及び表1に示したように13ヶ所を調査した。これには工事立会4件を含めた。前年度の調査件数が2ヶ所であったことに比べると、遺跡に係る開発

表1 平成18年度に調査した遺跡一覧

No	遺跡名	よみ	原因	調査方法	調査面積	調査期間	出土点数	発掘届日	終了届日
1	清明台	せいめいだい	個人住宅	発掘	23.5㎡	9/20～9/29	463点	7/20	10/6
2	仲町	なかもち	個人住宅	立会	(324㎡)	7/7	0点	5/10	
3	海端	うみはた	倉庫建設	試掘	5.9㎡	11/7	10点	9/8	11/13
4	照月台	しょうげつだい	個人住宅	試掘	7.6㎡	4/24～4/25	3点	2/14	5/2
5	上ノ原	うえのはら	研究所	確認	38㎡	6/22～6/23	0点	4/28	7/12
6	上ノ原	うえのはら	下水道管	試掘	4.8㎡	11/7～11/10	0点	7/13	11/16
7	東裏	ひがしうら	個人住宅	立会	(311㎡)	6/30	0点	4/25	
8	野尻湖団地	のじりこだんち	個人住宅	立会	(325㎡)	7/5	0点	4/2	
9	東裏	ひがしうら	個人住宅	試掘	7.2㎡	9/20	0点	6/20	9/27
10	柳原	やなぎはら	学校建設	確認	97.6㎡	11/22～11/27	11点		12/4
11	一里塚	いちりづか	個人住宅	試掘	8㎡	9/28～9/30	15点	7/20	10/6
12	諏訪ノ原	すわのはら	個人住宅	試掘	5.1㎡	9/13	15点	7/3	9/20
13	諏訪ノ原	すわのはら	倉庫建設	立会	(700㎡)	9/4	0点	6/20	

※調査面積の内、( )内の数字は調査対象面積。

行為が増加傾向にあることが伺える。

以下に調査の内容と成果を記述する。

## 1. 清明台遺跡 (2006個人住宅地点)

### A. 概要

所在地	信濃町大字野尻字高山1197-363
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査・本調査
調査面積	23.5㎡
調査期間	平成18年9月20日～9月29日
出土遺物点数	463点

### B. 遺跡の環境と調査に至る経緯

清明台遺跡は野尻湖の西側約1.5kmの台地上に位置する(図2)。台地の東側には池尻川低地(西たんぼ)が広がり、東側には北へ流下する池尻川が流れる。川との比高は約25mである。ここに清明台という別荘地が造成されており、今回その一角に住宅建設が計画された。この地域では過去に野尻湖発掘調査団による地質調査などで旧石器時代の遺物が採集されている(野尻湖人類考古グループ 1994)。住宅建設が計画された場所は北へ緩やかに上る傾斜地の途中にあたり、西側は池尻川に向かう崖状の地形となっている。ここには以前に建物があったということから、遺跡が既に破壊されている可能性もあり、遺跡がどのように残されているかを確認するために試掘調査を実施した。その結果、試掘調査のすべてのトレンチから石器が出土したために本調査が必要と判断し、事業主側と再度協議をおこなって了解を得た。

### C. 調査の方法

試掘調査は9月20日と22日に実施した。建物の基礎工事の範囲の四隅に1.5m×0.8mのトレンチを設定し、表土から手掘りによっておこなった。遺物が出土したために本調査が必要になり、事業主側と協議した結果、引き続き本調査をおこなうことになったため、9月25日から29日までの5日間で実施した。試掘トレンチで遺物が多数出土した北西コーナーのトレンチを中心に、主に西側で調査範囲を拡張した(図3)。

### D. 調査の結果

#### a. 層序

信濃町の台地上の遺跡で見られる層序がここでも確認することができた(図4)。表土(Ⅰ層)の下には「柏原黒色火山灰層」と呼ばれる黒ボク土(Ⅱ層)がある。Ⅳ層は明褐色土で、Ⅲ層はⅡ層とⅣ層が混ざり合った漸



図2 清明台遺跡の範囲と調査地の位置

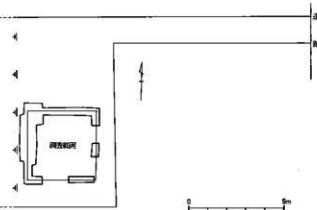


図3 清明台遺跡の調査範囲

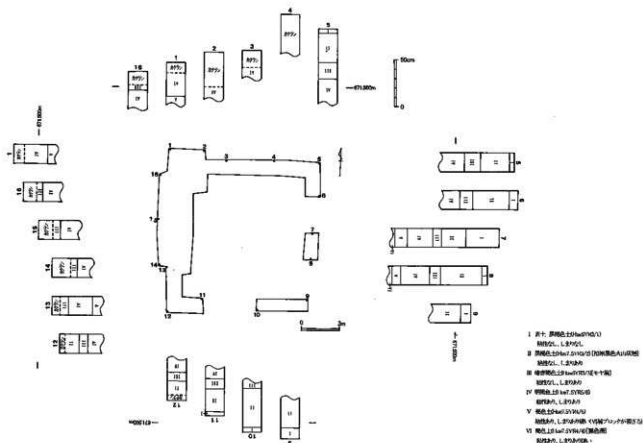


図4 清明台遺跡の土層

表2 層別別石器の出土点数

層位	I層	II層	III層	IV層	V層	カクラン
出土点数と割合	2 (1%以下)	7 (2%)	40 (11%)	294 (79%)	4 (1%)	27 (7%)
地層中の位置	中	上 中 下	上 中 下	上 中 下	上 中	
点数	2	4 1 2	3 11 26	42 197 55	2 2	

表3 石材別石器の出土点数

石材名	An	Ob	Tu	Ge	Ch	Ag
点数	226 60.9%	42 11.3%	38 10.2%	30 8.1%	29 7.8%	6 1.6%
重量(g)	1248.4 50.8%	92.51 3.8%	803.92 32.7%	97.03 3.9%	208.42 8.5%	8.77 0.4%
1点の平均重量	5.52	2.20	21.16	3.23	7.19	1.46

移層（「モヤ」と呼ばれている）となっている。VI層は褐色土で「黒色帯」と呼ばれており、V層はIV層とVI層が混在した範囲である。このV層にAT（始良 Tn 火山灰で、野尻湖周辺では「ヌカ I」火山灰と呼ばれている）が含まれることが野尻湖発掘調査団により確認されている。遺物はI層からV層まで出土しているが、石器の79%、鎌の97%がIV層から出土しており（表2、表8）、この地点の生活面はIV層の中にあっただと思われる。主な遺物の地層中の位置を図11に示したが、IV層の中でも中央部分にもっとも遺物が集中していることがわかる。

#### b. 遺物の分布と遺構

今回の調査地では西側全体と北東コーナーで遺物の集が見られたが、調査地の中央部は以前の建物によって攪乱を受けており、そこが遺物分布の空白となっているため、両者の関係は不明である。遺物は濼群の周囲に製石（ツール）がまとまっているように見られる（図5）。石材別の遺物の分布は図6～10に示した。下呂石にやまとまりが見られるものの、どの石材も全体に広がって分布していることがわかる。石材別では無珉品質安山岩が点数、重量ともに全体の半数以上を占めている（表3）。凝灰岩の点数は少ないが、大形の遺物が多く、重量では2番目に重い。数量では黒曜石が2番目に多いが、重量では3.8%しかない。これは下呂石と拮抗する。この地域の他の遺跡に比べて下呂石の点数が多いことも特徴として挙げられる。なお、母岩別の分類は図16にあるように、石材の色を調べるのと同時に、それぞれの石材の特徴を縦軸と横軸に取り、それによってグループ分けをおこなった。肉眼レベルの分類のため、同じグループのものが同一母岩という確証は得られていないが、近い石材をまとめることができたと思われる。分類結果は表6～7の母岩の項目に示した。

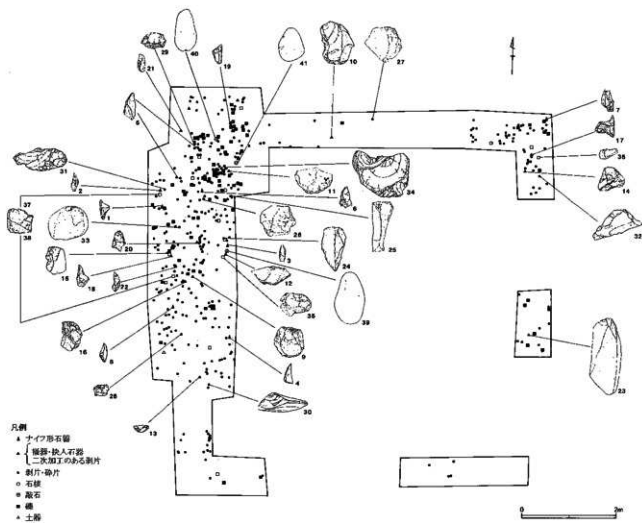


図5 清明台遺跡の遺物の分布(全体)



図6 石材別の遺物分布(無選品質安山岩)  
(凡例は図6~10に共通する)

図7 石材別の遺物分布(凝灰岩)

図8 石材別の遺物分布(黒曜石)

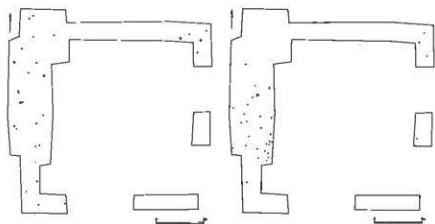


図9 石材別の遺物分布 (チャート)

図10 石材別の遺物分布 (下呂石)

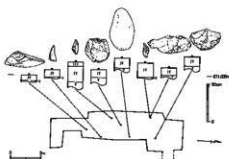


図11 主な遺物の地層中の出土位置

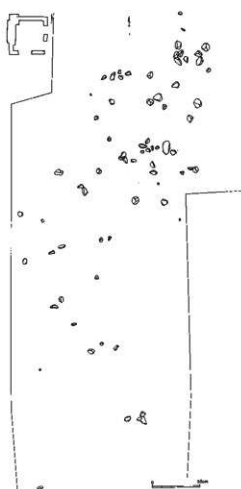


図12 礫の分布

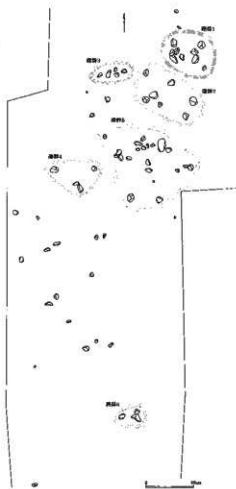


図13 礫群の分布

表4 礫に関する分析結果

長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	割れ目の割合 (%)	焼け (0段階)	割れあり○なし×	焼けあり○なし×	自然面に焼けあり○なし×	割れ面に焼けあり○なし×	平面形 (長短)	平面形 (角丸)
平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	平均値	数	数	数	数	数	数
7.3	5.2	3.7	199	59	1.9	○ 81 92	○ 81 92	○ 80 99	○ 51 69	長 26 69	角 63 72
						× 7 8	× 7 8	× 1 1	× 23 31	短 62 31	丸 25 26





礫の分布は図12に示した。石質は安山岩で、在地の礫であり、鳥昇川等で採取できる。ほぼ同層準から出土していることから、ほぼ同時期のものとして判断した。これを視覚的にグループ分けし、6つの礫群として捉えた(図13)。また、一辺が20cm程ある大きな礫が出土したため、その周辺の礫を含め配石遺構とした(図15)。出土したすべての礫のデータは表8に示し、それを集計して平均値等を表4に示した。大きさは長軸を上下にして置いて長さとし、それに対する幅、厚さを計測した。その平均は大人のこぶし大ほどであることがわかる。割れの割合とは礫の外形の内、何割程度割れているかという値で、平均で約6割となっている。焼けはその程度を目で見た感覚で3段階に分け、礫表面の焼け色(橙褐色など)が濃いものを3、薄いものを1とし、中間のものを2とした。礫は全体の92%が割れており、同様に92%が焼けている。割れた面が焼けている礫が59%あることから、礫を繰り返し焼いて使用していることが伺える。平面形で長くても角張ったものが多い傾向も、割れた礫が多いためと思われる。配石の礫も焼けており、礫群、配石はともに火にかけられていたことは明らかで、調理等に用いられていたことが想定できる。

### c. 出土遺物

遺物は縄文土器2点を除いて旧石器時代のもものと見ており、主な遺物を図17～20(番号の下に器種、石材、出土層位、遺物番号を記した)に示し、その特徴を表5に記載した。石器の部位の呼称や計測部位については図21に示した。石材名と石材の略号は図16を参照された。剥片石器の石器組成はナイフ形石器、掻器、挟入石器で、ほかに敲石が3点出土した。石核と剥片から剥片剥離技術を推定すると、打面調整剥離はおこなわず、自然面や単側面を打面として110度前後の剥離角で、幅広くの剥片を剥離していると思われる。中には翼状剥片に類似した横長剥片も見られるが(図19の30～32)、瀬戸内技法のような横長剥片を連続で剥離する技術で剥離されたものとは考えられず、先に述べた剥片剥離技術の中で、こういった剥片も剥離されたものと考えられる。ナイフ形石器の二次加工は急角度のものが多く、調整角が90度前後を示すものが多い。そのため石器が厚いという印象をもつ。掻器は素材の末端に弧を描くように刃部がつくられていて、素材の剥片の打面側が折れているものが多い。これは折れたものか、意図的に折られたものなのかは不明である。縄文土器は縄文早期の沈瀬文系の土器と思われる(図22)。

### E. まとめ

今回の調査地点では23.5㎡という狭い範囲の調査でありながら、463点もの遺物を得ることができ、礫群等の遺構とともに、旧石器時代の石器群を検出することができた。遺物のほとんどが旧石器時代のほぼ同一時期のものと考えられる。

今回の出土層位はIV層の中央付近からやや下位にかけてである。野尻湖発掘調査団による地層区分では上部野尻湖Ⅱ層Ⅱ下部にあたり、長野県埋蔵文化財センターの層序区分のIV層下部にあたる。この層準は広域火山灰のAT(始良Tn火山灰)降灰後のそれほど時間の経っていない時期にある。文化層では野尻湖人類考古グループによる区分の上Ⅱ下部文化層(野尻湖人類考古グループ 1994)と、長野県埋蔵文化財センターが調査した遺跡から設定された第Ⅲ期(谷、大竹 2003)にあたるものと思われ、南関東ではV～IV層下部に対比される。

今回の調査地点の石器群の特徴をまとめると以下ようになる。

- ①出土層位はIV層中部～下部。
- ②石刃は組成せず、石刃技法は見られない。
- ③剥片剥離は打面調整をおこなわず、自然面や単側面を加撃して、幅広く狭長の剥片を剥離する。
- ④剥片石器の石器組成はナイフ形石器、掻器、挟入石器である。
- ⑤ナイフ形石器は概して小型で、切り出し形を含む二側縁加工と一側縁加工である。調整加工は90度に近い急角度になっているため、厚みがある印象である。
- ⑥掻器は素材の末端部に弧状の刃部を設ける。
- ⑦礫群が伴う。

野尻湖遺跡群の中で中時期の遺跡と思われるのは、出土層位と石器群の様相から、照月台遺跡(野尻湖人類考古グループ 1987)、伊勢見山遺跡(小林達雄 1982)、大平B遺跡(長野県埋蔵文化財センター 2000)、日向林B遺跡(長野県埋蔵文化財センター 2000)、七ツ栗遺跡(長野県埋蔵文化財センター 2000)である。この中では大平B遺跡の大平I石器文化がもっとも近いものと思われる。日向林B遺跡の日向林III石器文化、七ツ栗遺跡の七ツ栗I石器文化は石刃状の狭長剥片の剥片剥離が見られることなどから、これらは今回調査した清明台の石器群よりもやや新しい時期に位置づけたい。

今回の調査地で遺物が出土した層準は野尻湖遺跡群の中でも遺跡数の少ない時期にあたる。今回この時期の資料を比較的良好な状況の中で捉えることができたことは、今後の研究に寄与するところが大きいと思われる。

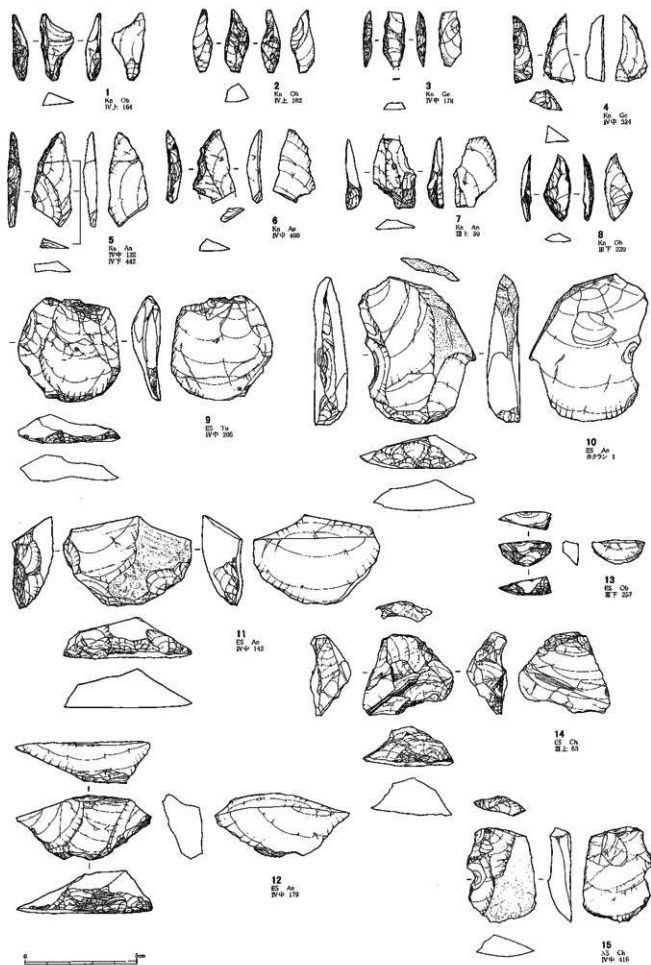


図17 主な出土遺物(1) (ナイフ形石器、搔器、抉入石器)

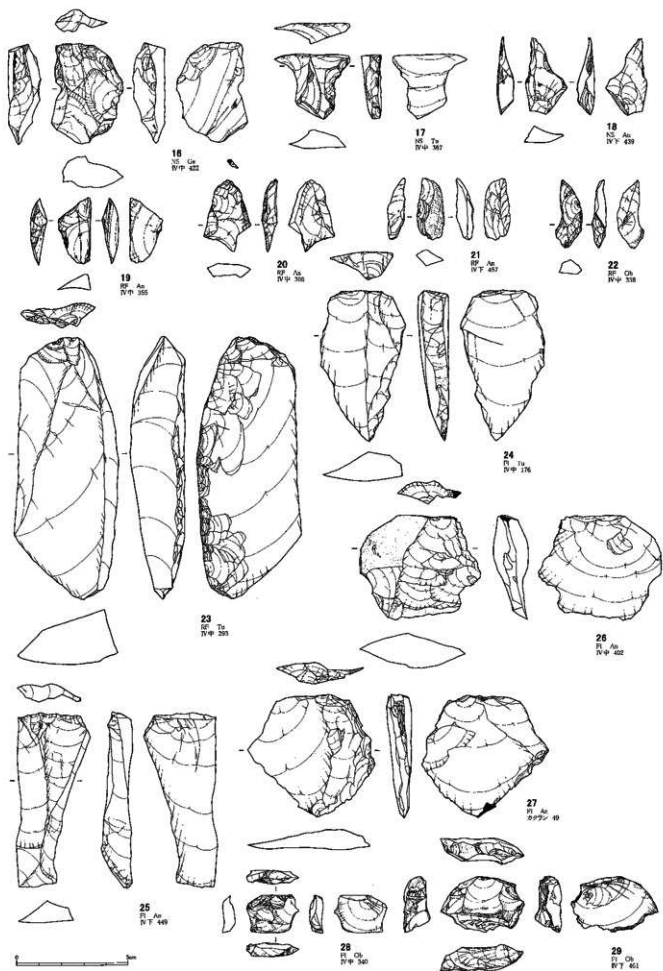


図18 主な出土遺物(2) (挟入石器、二次加工のある剥片、剥片)

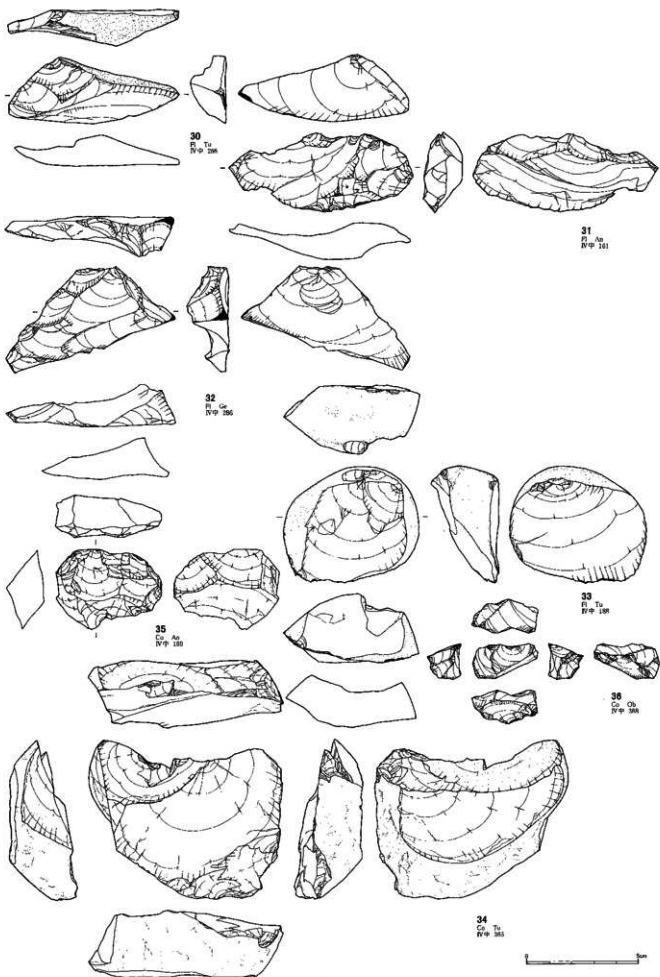


図19 主な出土遺物(3)(剥片、石核)

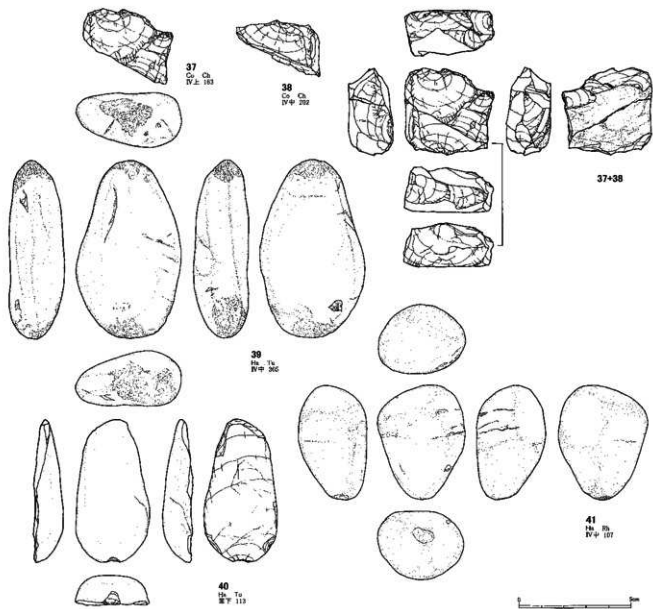


図20 主な出土遺物（4）(石核、敲石)

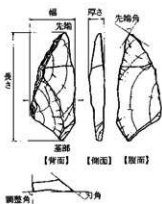


図21 石器の計測方法



図22 清明台遺跡出土の縄文土器

表5 主な出土遺物の観察表

図番号	遺物番号	遺物名	石種	層位 中の 位置	特徴
1	164	ナイフ形石器	Ch IV 上	上	二層加工のナイフ形石器。製片を素材とし、その打面側を基部とする。先端角48度。側面角は左側縁が60～76度、右側縁が50～60度。刃角は70度前後。
2	165	ナイフ形石器	Ch IV 上	上	一層加工のナイフ形石器。厚手で幅広い製片を素材とし、その打面側に二次加工を施す。先端角は28度。右側縁の側面角は80～90度。刃角は70度前後。
3	170	ナイフ形石器	Ch IV 中	中	二層加工のナイフ形石器で台形状を呈する。素材を使用し、側面角は右側縁上に70～80度。刃角は48度前後。
4	201	ナイフ形石器	Ch IV 中	中	一層加工のナイフ形石器。基部角は欠損する。先端角は32度。右側縁の側面角は30度前後。刃角は50～60度。
5	122	ナイフ形石器	Ch IV 中	中	一層加工のナイフ形石器。基部の両側の未研磨部分が残り、打面側に急角度の二次加工を施す。先端角は33度。左側縁の側面角は70～95度。刃角は25度前後。
6	442	ナイフ形石器	An IV 下	下	一層加工のナイフ形石器。先端角は30度。右側縁の側面角は50度前後。刃角は30～40度。
7	50	ナイフ形石器	An III 上	上	二層加工のナイフ形石器。基部の両側面に加工があり、先端は欠損する。側面角は左側縁が70～75度、右側縁が70～80度。刃角は左側縁が60度前後。右側縁が40度前後。
8	232	ナイフ形石器	Ch III 下	下	一層加工のナイフ形石器。基部の製片を素材に用いる。先端角は48度。側面角は右側縁上に70度前後。刃角は33度前後。
9	203	製片	Ts IV 中	中	製片は早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は143度。素材の未研磨に加工を受け、側面角は73～80度。
10	166	製片	An コテラ	コテラ	素材は自然面打面を欠す幅広い製片で、側面角は123度。素材の未研磨に加工を受け、刃角の側面角は70～83度。
11	142	製片	An IV 中	中	製片の基部に刃部を欠ける。素材の打面側は欠損する。刃角の側面角は左側縁が側面角は23度前後。右側縁が65～70度。
12	171	製片	An IV 中	中	厚手の素材の打面が欠損する。刃角の側面角は110～115度で、刃部の中央付近で鋭角となっている。ナイフ形石器の可能性がある。
13	251	製片	Ch III 下	下	厚手の素材の打面が欠損する。先端角90度。右側縁の側面角は30～45度と急角度。刃角は右側縁が、ナイフ形石器の可能性もある。
14	60	製片	Ch III 上	上	素材は自然面打面を欠す厚手で幅広い製片で、側面角は254度。素材の未研磨に加工を受け、刃部の二次加工は投入部で、側面角は73～80度。
15	416	投入石器	Ch IV 中	中	側面角は早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は116度。左側縁に投入部があり、側面角は254度。
16	424	投入石器	Ch IV 中	中	側面角は早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は107度。素材の背面には尖った形の側面角あり、右側縁の投入部の側面角は254度。右側縁に側面角がある。
17	307	投入石器	Ts IV 中	中	素材は未研磨側面が幅広い製片で、打面側が欠損する。投入部の側面角は165度。
18	424	投入石器	An IV 下	下	側面角は早期製打面が幅広い製片で、側面角は124度。両側面に二次加工が施され、側面角は左側縁が70度前後、右側縁が60度前後。右側縁に投入部がある。ナイフ形石器に類似する。
19	252	一次加工のある製片	An IV 中	中	製片の打面側に急角度の加工が認められる。側面角は21度前後。ナイフ形石器に類似する。
20	201	一次加工のある製片	An IV 中	中	早期製打面が幅広い製片の背面に、両側面に二次加工が施されている。側面角は123度。
21	427	一次加工のある製片	An IV 下	下	早期製打面が幅広い製片の背面の一部に二次加工が施され、ナイフ形石器の形を呈する。側面角は104度。
22	338	一次加工のある製片	Ch IV 中	中	早期製打面が幅広い製片の側面に30～40度の急角度の二次加工が施されている。製片の側面角は126度。
23	291	一次加工のある製片	Ts IV 中	中	大形の製片の基部の一部に扁平な側面が連続して施されている。小形の製片を素材としたもの可能性がある。
24	170	製片	An IV 中	中	基部の製片。打面は自然面で側面角は259度。
25	441	製片	An IV 下	下	基部の製片。早期製打面が幅広い製片で、側面角は126度。背面に自然面がある。
26	420	製片	An IV 中	中	早期製打面が幅広い製片の製片で、側面角は108度。背面に自然面がある。
27	40	製片	An コテラ	コテラ	早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は97度。基部の縁部に一部に側面角がある。
28	340	製片	Ch IV 中	中	早期製打面を欠す幅広い製片の製片で、側面角は121度。背面に扁平な側面が認められる。基部の一部に側面角の側面角があり、刃角は127度。
29	411	製片	Ch IV 下	下	早期製打面が幅広い製片の製片で、側面角は116度。側面に自然面あり。背面に側面角がある。
30	290	製片	Ts IV 中	中	長さの製片。早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は118度。
31	141	製片	An IV 中	中	長さの製片。早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は116度。背面に長さの製片の側面角が認められる。基部の一部に側面角の側面角が見られる。
32	298	製片	An IV 中	中	長さの製片。早期製打面を欠す幅広い製片で、側面角は110度。背面には長さの製片の側面角がある。
33	180	製片	Ts IV 中	中	自然面打面が幅広い製片の製片で、側面角は123度。自然面打面が幅広い製片の側面に加工されている。基部に側面角がある。
34	300	製片	Ts IV 中	中	幅広い製片を素材とした石状。自然面打面。自然面打面。基部が平らで、基部に尖った形の石を右端としている。大形で幅広い製片は扁平な側面角を打面とし、側面角は124度。小形の幅広い製片は自然面打面をして、側面角は34度。
35	186	石核	An IV 中	中	小形で幅広い製片を素材とした石状。扁平な側面角を打面にして、複数の製片を剥離し、側面角は114度、134度。縁の一部に側面角の側面角がある。
36	380	石核	Ch IV 中	中	小形で幅広い製片を剥離した石状。扁平な側面角を打面にして、複数の製片を剥離し、側面角は118度、126度。縁の一部に側面角の側面角がある。
37	102	石核	Ch IV 上	上	幅広い製片を剥離した石核。3つ結合する。早期製面を打面にして側面角101度で製片を剥離し、自然面あり。基部側で割れ、そこで結合する。幅広い製片を剥離した石核。3つ結合する。早期製面を打面にして側面角101度で製片を剥離し、自然面あり。基部側で割れ、そこで結合する。幅広い製片を剥離した石核。3つ結合する。早期製面を打面にして側面角101度で製片を剥離し、自然面あり。基部側で割れ、そこで結合する。
38	103	石核	Ch IV 上	上	幅広い製片を剥離した石核。3つ結合する。早期製面を打面にして側面角101度で製片を剥離し、自然面あり。基部側で割れ、そこで結合する。
39	205	石核	Ts IV 中	中	幅広い製片を剥離した石核。3つ結合する。早期製面を打面にして側面角101度で製片を剥離し、自然面あり。基部側で割れ、そこで結合する。
40	118	石核	Ch III 下	下	下部に自然面がある。使用の痕跡で割れたものと思われる。
41	107	石核	Ch IV 中	中	下部に自然面がある。使用の痕跡で割れたものと思われる。

## 2. 仲町遺跡

## A. 概要

- 所在地 信濃町大字野尻字上ノ原540-4、544-1  
原因 個人住宅建設  
調査方法 工事立会  
調査面積 324㎡(工事面積)  
調査期間 平成18年7月7日  
出土遺物点数 0点

## B. 調査に至るまでの経緯と調査結果

住宅建設予定地の地形は北西方向へ下がる傾斜地であった(図23)。設計では斜面の低い部分に盛り土をし、盛り土の範囲内で基礎工事をおこない、現状の地表は掘削しないことになっていたため、遺跡が保護されると判断し、基礎工事開始の日に工事立会をおこなって状況確認をした。

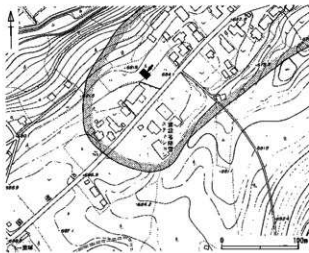


図23 仲町遺跡の範囲と調査地の位置

## 3. 海端遺跡(2006倉庫建設地点)

## A. 概要

- 所在地 信濃町大字野尻344-5  
原因 倉庫建設

調査方法 試掘調査  
 調査面積 5.9㎡  
 調査期間 平成18年11月7日  
 出土遺物点数 10点

#### B. 調査に至る経緯と調査結果

海端遺跡内で倉庫の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。道路よりも低い平坦な荒蕪地で、北側は畑地、南側は林地となっていた(図24)。建設予定地の4隅に1.5m×0.8mの試掘用のトレンチを設置して手掘りにより掘り下げて調査を実施した。数十年前にここに建物があったということもあり、東側のトレンチでは客土を確認した(図25)。北西のトレンチから土師器片が出土したためトレンチを拡張をしたが、遺物の分布範囲は広がらなかった(図26)。遺物は10点出土したが、いずれも幅2cm程度の小片で、遺構も確認できなかったことから、遺跡の縁辺部と思われる、本調査の必要はないと判断した。遺物は2点が縄文土器で、8点が土師器である。縄文土器にはRLの縄文が施されている(図27)。胎土には繊維痕が残ることなどから縄文時代早期に位置づけたい。土師器については時期を決める手がかりがないため、周囲の遺跡との関係から判断して、縄文平安時代に位置づけておくことにする。

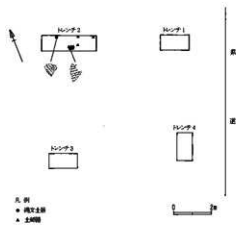


図26 海端遺跡の遺物の分布

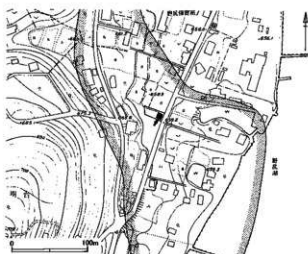


図24 海端遺跡の範囲と調査地の位置

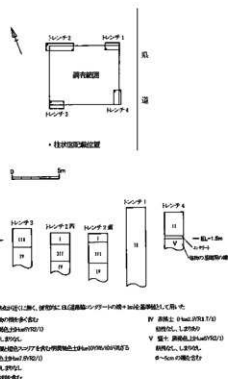


図25 海端遺跡の調査範囲と土層

#### 4. 照月台遺跡 (2006個人住宅地点)

##### A. 概要

所在地 信濃町大字野尻字滝沢775-13  
 原因 個人住宅建設  
 調査方法 試掘調査  
 調査面積 7.6㎡  
 調査期間 平成18年4月24日～4月25日  
 出土遺物点数 3点

##### B. 調査に至る経緯と調査結果

照月台遺跡内で個人住宅の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。地形は北側へ下るやや角度のきつい斜面であった(図28)。ここに1.5m×0.8mの試掘トレンチを建設予定地の4隅に設置し、基礎工事で掘削する予定の地表下50cmまでを手掘りにより掘り下げた。南側に設定したトレンチ



図27 海端遺跡出土の縄文土器



から遺物が出土したため、東西方向に拡張した(図29のトレンチ1)。しかし、遺物は3点のみで、遺物の分布範囲が広がらないことが確認できたため(図30)、本調査は必要ないと判断した。遺物は土師器1点、土器1点、瓦1点で、小片のために時期の特定は難しく、土師器の存在から概ね平安時代としておきたい。

## 5. 上ノ原遺跡(2006研究所在地)

### A. 概要

所在地	信濃町大字柏原183-2
原因	研究所建設
調査方法	確認調査・試掘調査
調査面積	研究所建物・38㎡ 研究所下水道管敷設・4.8㎡
調査期間	研究所建物・平成18年6月22日～6月23日 研究所下水道管敷設・平成18年11月7日～11月10日

出土遺物点数 0点

### B. 調査に至る経緯と調査結果

鳥居川消防署信濃町分署の裏手に柏原グラウンドがある(図31)。これは1948年(昭和23年)に開校し、1989年(平成元年)に閉校となった北部高校の信濃町分校グラウンドとして使用されていたところである。ここにバイオマスの研究施設を建設することになったために遺跡の保護協議をおこなった。周辺では、今回の調査地の西側で、1990年(平成2年)に開墾が原因で発掘調査が実施され、旧石器時代細石器文化の石囲い炉が検出されるなど、国内でも希少な遺構が確認されている(中村 1992)。また、1996年(平成8年)にはグラウンド内に高速道路建設の舗装用プラントを建設するために確認調査が実施され、開発で掘削する深さ50cmまでは客土がされていることが確認された。今回の建物の設計では深さ115cmの掘削が予定されていたが、グラウンドの造成時に切り土と盛り土がど

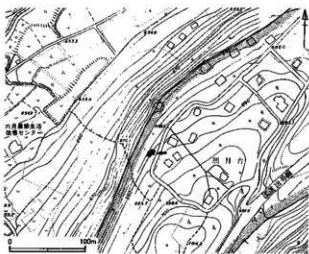


図28 照月台遺跡の範囲と調査地の位置

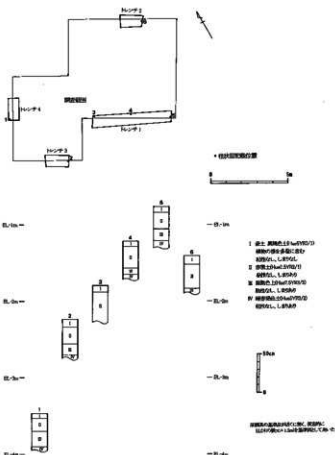


図29 照月台遺跡の調査範囲と土層

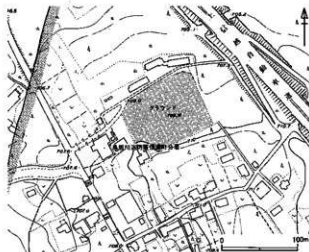


図31 上ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

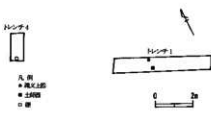


図30 照月台遺跡の遺物の分布



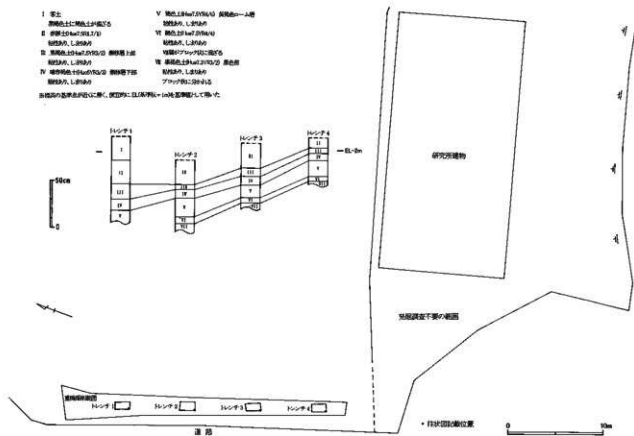


図33 上ノ原遺跡の下水道管敷設に伴う試掘調査の位置と土層

のような範囲でおこなわれていたかが不明であったため、遺跡が残されている可能性を含めて確認する必要があった。保護協議では、グラウンド内であれば建設地を移動できるため、調査の結果によって遺跡に影響の無い位置に建物を移動したいとの事業主の意向があったため、遺物を包含する可能性がある地層の有無を確認することを目的に調査をおこなった。バックホウによって、2.0m×1.0m程度のトレンチを19ヶ所（TP-1～19）掘削し、地層の記録をおこなった（図32）。その結果、当初の建設予定地は客土がなされておらず、その下に遺物を包含する可能性がある地層（ⅡからⅥ層上部まで、図32の柱状図で網かけの部分）が残されていることを確認した。また、TP-11、TP-14よりも南側はグラウンド造成時の削平により、ⅡからⅥ層上部は残されていないことが確認できた。このことを事業主へ伝えたと、ゲートボール場として使われていたあたりへ建設するように計画変更がなされた。そのため、本調査は実施しないことにした。

ただし、下水道管の敷設については遺跡を破壊する可能性があったために、事前に試掘調査を実施した。下水道管敷設予定の範囲をバックホウで客土を取り除いた後、1.5m×0.8mのトレンチを4ヶ所設定して手掘りをおこなった（図33）。いずれのトレンチからも遺構、遺物は確認できなかったことから、本調査は必要ないと判断し、調査を終了した。

## 6. 東裏遺跡

### A. 概要

所在地	信濃町大字柏原東裏334-2
原因	個人住宅建設
調査方法	工事立会
調査面積	311㎡（工事面積）
調査期間	平成18年6月30日
出土遺物点数	0点

### B. 調査に至る経緯と調査結果

東裏遺跡内で個人住宅の建設が計画されたが、既存の建物を解体した後、ほぼ同じ位置に建設する計画であった。既存の建物の基礎工事をおこなった際これを撤去



図34 東裏遺跡の範囲と調査地の位置

する際に大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高かったため、工事立会とし、基礎工事の掘削時に状況確認をおこなった(図34)。

## 7. 野尻湖団地遺跡

### A. 概要

所在地 信濃町大字柏原字小丸山2470-17  
 原因 個人住宅建設  
 調査方法 工事立会  
 調査面積 325㎡(工事面積)  
 調査期間 平成18年7月5日  
 出土遺物点数 0点

### B. 調査に至る経緯と調査結果

野尻湖団地遺跡内で個人住宅の建設が計画されたが、既存の建物を解体した後、ほぼ同じ位置に建設する計画であった。既存の建物の基礎工事をおこなった際とこれを撤去する際に大きく改変され、遺跡が残されていない可能性が高かったため、工事立会とし、基礎工事の掘削時に状況確認をおこなった(図35)。

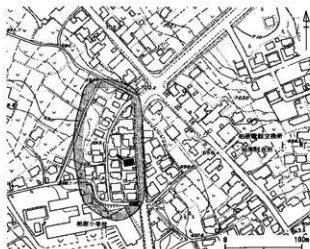


図35 野尻湖団地遺跡の範囲と調査地の位置

## 8. 東裏遺跡(2006個人住宅地点)

### A. 概要

所在地 信濃町大字柏原466-27  
 原因 個人住宅建設  
 調査方法 試掘調査  
 調査面積 7.2㎡  
 調査期間 平成18年9月20日  
 出土遺物点数 0点

### B. 調査に至る経緯と調査結果

東裏遺跡内で個人住宅の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。地形はやや東側を下る緩斜面であった(図36)。基礎工事の範囲に1.5m×0.8mの試掘トレンチを6ヶ所設置し、手掘りをおこなった結果、図37のトレンチ2、3、5、6ではⅢ層が客土であり、埋め立てられていることがわかった。土地の人からも埋め立てて造成された場所との話を聞くことができた。トレンチ1、4には本来の地層が残されていたが、遺構・遺物は確認できなかった。こうしたことから本調査は必要ないと判断した。



図36 東裏遺跡の範囲と調査地の位置

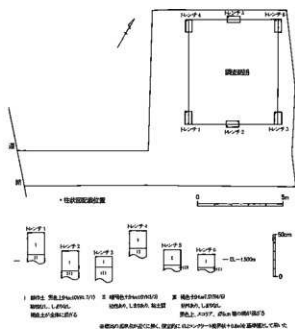


図37 東裏遺跡の調査範囲と土層

## 9. 柳原遺跡(2006信濃中学校地点)

### A. 概要

所在地 信濃町大字古閑字柳原491-1  
 原因 統合小学校建設  
 調査方法 確認調査  
 調査面積 97.6㎡  
 調査期間 平成18年11月22日～11月27日  
 出土遺物点数 11点

### B. 調査に至る経緯と調査結果

信濃町で5校ある小学校を統合して1校にする方針

が出され、信濃町教育委員会総務教育係が統合校舎の建設予定地を選定している中で、信濃中学校のグラウンドがその有力な候補地となった。信濃中学校は旧北国街道古間宿を東に望む段丘上の高台に位置する。西側には一段低い面に水田が広がり、段丘面と水田との比高は約80mである(図38)。信濃中学校は町内の中学校を統合してできたもので、昭和43年(1968)に着工、昭和45年に竣工した。当時の工事記録によれば、この場所は西から東に下る緩斜面になっていて、概ね西側を切り土し、東側に盛り土をして造成されたことがわかった。ここでは工事の際に土器が出土したとの証言が得られていること、平成元年に『信濃町のロマンを求めて』としてまとめられた信濃中学校3年5組の調査記録の中で、テニスコートから黒曜石製のナイフ彩石器が1点出土した記録があることから、旧石器時代と平安時代の遺跡とされている。しかし、これまでこの遺跡内で発掘調査が実施された経緯はなく、遺跡の状況は不明であった。このようにすでに造成済みであるものの、遺跡が残されている可能性がある場所について、どのように保護策をとるべきか長野県教育委員会の意見を聞くために、9月4日に県教育委員会文化財・生涯学習課と町教育委員会総務教育係、生涯学習係の三者で現地を確認しながら協議をおこなった。県教委の意見は次の5つのことを確かめるための確認調査を実施すべきとのことであった。①グラウンドの東側は盛り土されている可能性が高いので、盛り土の状況とその下に遺跡が残されているか確認すること、②盛り土と切り土の境界がどのあたりにあるか確認すること、③切り土されているという西側には遺跡が残されていないか確認すること、④校舎の南側で遺跡が残されているかを確認すること、⑤テニスコートの周辺で旧石器時代の遺物包含層が残されているかを確認すること、の5点である。この意見に従って調査を実施することになり、調査時期については中学校と協議し、部活動などの影響が少ない11月22日から調査をおこなうことになった。①については図39のトレンチ1～5、②はトレンチ6、③はトレンチ7、④はトレンチ8、⑤はプールの南側のテニスコート脇で法面の地層を調査した。

#### C. 調査の方法

盛り土が施されていると考えられたグラウンドの東側については約80mの直線上に20m間隔で5箇所のトレンチを設定した(図39トレンチ1～5)。5m×3mをバックホウ(0.5クラス)で慎重に掘削してもらい、旧表土と思われる黒褐色土が出たところで環境による掘削をやめ、その下は1.5m×0.8mの範囲を手掘りによって掘り下げた。トレンチ6はバックホウによって長さ約15mを約1mの幅で、1.2m程度の深さで掘り、地層の状況を確認した。トレンチ7も同様にバックホウによって掘削し、3m×1m程度の範囲を1.2m程度掘り下げた。トレンチ8は草の生えた表土15cm程度を小型のバックホウで削ぎ取った後、手掘りによって掘り下げた。

#### D. 調査の結果

トレンチ1～5では予想通り埋め土の下には旧表土があり、遺物包含層が残されていることを確認した。グラ

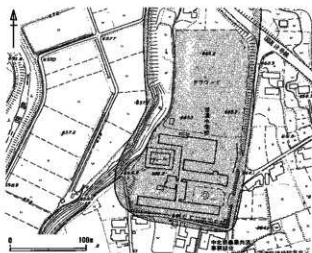


図38 榊原遺跡の範囲と調査地の位置

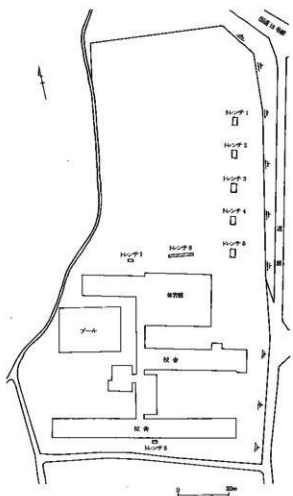


図39 榊原遺跡の調査位置

- I 黒砂、砂質粘土
- II 黒砂、粘土
- III 黒砂、粘土
- IV 黒砂、粘土
- V 黒砂、粘土
- VI 黒砂、粘土
- VII 黒砂、粘土
- VIII 黒砂、粘土
- IX 黒砂、粘土
- X 黒砂、粘土
- XI 黒砂、粘土
- XII 黒砂、粘土
- XIII 黒砂、粘土
- XIV 黒砂、粘土
- XV 黒砂、粘土
- XVI 黒砂、粘土
- XVII 黒砂、粘土
- XVIII 黒砂、粘土
- XIX 黒砂、粘土
- XX 黒砂、粘土

・柱穴の位置  
△ 遺構の位置

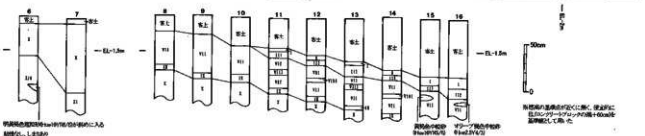


図40 柳原遺跡の土層 (1)

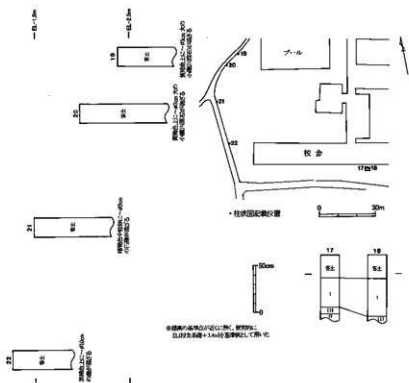


図41 柳原遺跡の土層 (2)

ンドの東側は厚いところで1.4m程度、浅いところでも1mの盛り土があり、その下に旧表土と思われる黒褐色土が確認できた(図40のI黒褐色土、II黒褐色土)。トレンチ2ではこの層から平安時代のもと思われる土師器が出土した。また、トレンチ3、4ではVI灰オリーブ粘土層があり、水田の痕跡とも考えられ、かつて水田があったことが推測できた。トレンチ4からはVI層の上の耕作土(V層)から珠洲焼の破片が出土した。IV層以下は粘土質の土層となる。今回の調査で旧石器時代の遺物は出土しなかったこと、地層のようすから旧石器時代には完全に陸化した状況になっていなかったと思われることから、トレンチ1~5の地点には旧石器時代の遺跡がある可能性は低いと判断した。

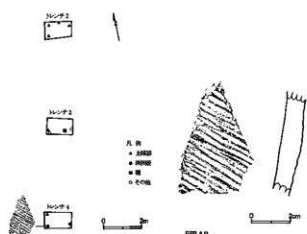


図43 柳原遺跡の遺物の分布 柳原遺跡出土の珠洲焼

トレンチ6ではその柱状図を見ると、柱状図11~16で黒褐色土(I層)の上部を削った後、棄土されていることがわかる。よって、古代、中世の遺物を包含するI層があまり残されていないために、グラウンドの中央部においても遺跡が残されている可能性が低いと考えられる。柱状図8~10では遺物包含層部分は切り土によって完全に取り去られていることがわかる。トレンチ7も同様に削平を受け、かつ、粘土層、シルト層、砂礫層などの水成層であることから、旧石器時代の遺跡が残されている可能性もほとんどないものと思われる。

トレンチ8では客土の下に出表土以下の地層が残されていたが(図41)、遺構や遺物は出土しなかった。この周囲は駐輪場や倉庫などが建設されており、全く改変を受けずに残されている場所はわずかであると思われる。

プールの南側のテニスコート脇では旧石器時代の地層が残されているか確認するために法面を手掘りにより削ってみたが、すべて客土であることがわかった。よって、過去にテニスコートから出土した旧石器時代の石器についてはその出土位置を特定することができなかった。テニスコート造成時に搬入された土に石器が含まれていた可能性も含め、再検討が必要である。

#### E. 出土遺物

トレンチ2では土師器の破片が4点出土した(図42)。小片であり時期を特定することは困難であるが、周囲の遺跡との関係から、概ね平安時代のもと考えておきたい。トレンチ4からは珠洲焼の破片(図43)が出土した。甕の破片と思われる、珠洲焼がこの地域に流通した室町時代の所産と考えられる。

#### F. まとめ

以上のような調査の結果から、グラウンドの東側3分の1の範囲に遺跡が残されていることがわかった。時代は古代と中世であり、旧石器時代の遺跡がある可能性は低いと思われる。よって、遺跡が残されているこの地域に校舎等の建物を建てる計画になった場合には本調査が必要である。

### 10. 一里塚遺跡(2006個人住宅地点)

#### A. 概要

所在地	信濃町大字古間字一里塚966-6
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	8㎡
調査期間	平成18年9月28日~9月30日

出土遺物点数 16点

#### B. 調査に至る経緯と調査結果

一里塚遺跡内で住宅の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。道路よりも若干高く、北東側へ緩やかに下る地形で、畑地として利用されていた場所である(図44)。基礎工事予定地に1.5m×0.8mの試掘用のトレンチを6ヶ所設置して手掘りをおこない、遺物が出土した地点(トレンチ4)のみ拡張した(図45)。地層は10cm程

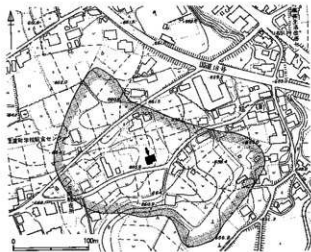


図44 一里塚遺跡の範囲と調査地の位置

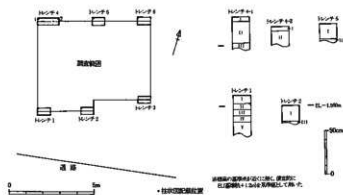


図45 一里塚遺跡の調査範囲と土層

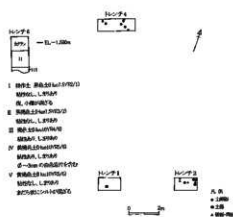


図46 一里塚遺跡の遺物の分布

の耕作土の下に黒ボク土、黄褐色のローム層が堆積していた。遺物が16点出土したが(図46)、いずれも耕作土中からの出土で、攪乱を受けない地層から遺構・遺物は確認できなかったことから、本調査は必要ないと判断した。遺物は土師器と陶磁器、素焼きの土器であった。小片のために時期を特定するのは困難であるが、土師器は概ね平安時代、陶磁器と素焼きの土器は近世以降のものとしておきたい。

## 11. 諏訪ノ原遺跡 (2006個人住宅地点)

### A. 概要

所在地	信濃町大字富濃字諏訪ノ原1906-9
原因	個人住宅建設
調査方法	試掘調査
調査面積	5.1㎡
調査期間	平成18年9月13日
出土遺物点数	15点

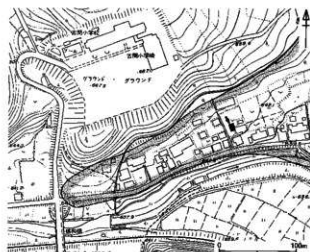


図47 諏訪ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

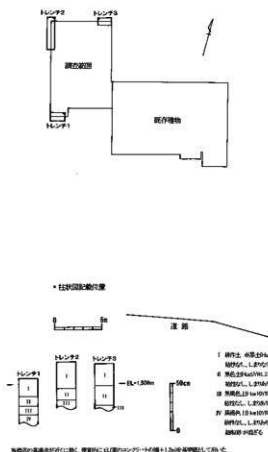


図48 諏訪ノ原遺跡の調査範囲と土層

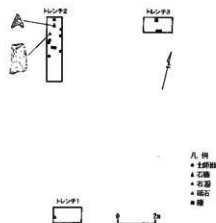


図49 諏訪ノ原遺跡の遺物の分布



## B. 調査に至る経緯と調査結果

諏訪ノ原遺跡内で住宅の増築部分の建設が計画されたため、当該地の遺跡の状況を確認するために試掘調査を実施した。地形はほぼ平坦で、現状は畑であった(図47)。基礎工事予定地に1.5m×0.8mの試掘用のトレンチを3ヶ所設置して、基礎工事で掘削する予定の深さ約50cmまで手掘りをおこなった。遺物が出土した地点のみ拡張し(トレンチ2)、遺物の広がりを確認した(図48)。地層は耕作土の下に黒ボク土が厚く堆積していた。遺物は石器2点と土師器である(図49)。縄文土器は出土しなかった。石器はいずれも無斑晶質安山岩製で縄文時代の石鏃とスクレイパーである(図50)。土師器片はいずれも幅2cm程度の小片であり、時期を特定するのは難しく、概ね平安時代としておきたい。遺物の多くは耕作土から出土しており、遺構も確認できなかったことから、遺跡の縁辺部と考えられ、本調査は必要ないと判断した。



図50 諏訪ノ原遺跡出土の石器

## 12. 諏訪ノ原遺跡

### A. 概要

所在地	信濃町大字高濃字諏訪ノ原2010-2
原因	倉庫建設
調査方法	工事立会
調査面積	700㎡(工事面積)
調査期間	平成18年9月4日
出土遺物点数	0点

### B. 調査に至る経緯と調査結果

諏訪ノ原遺跡内で倉庫の建設が計画されたが、既存の建物を解体した後、ほぼ同じ位置に建設する計画であったため、既存の建物の基礎工事をおこなった際とこれを撤去する際に大きく変更されてしまい、遺跡が残されていない可能性が高かったため、工事立会とし、基礎工事の掘削時に状況確認をおこなった(図51)。



図51 諏訪ノ原遺跡の範囲と調査地の位置

## 文献

- 小林達雄 1982 伊勢見山遺跡。長野県史考古学資料編 全一巻(2)主要遺跡(北・東信)、57-62。  
谷和隆・大竹憲昭 2003 野尻湖遺跡群における石器文化の変遷。第15回長野県旧石器文化研究交流会シンポジウム「野尻湖遺跡群の旧石器時代編年」発表資料、23-57。  
長野県埋蔵文化財センター 2000 上信越自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書15 信濃町内その1 口向林B遺跡、日向林A遺跡、七ツ栗遺跡、大平B遺跡、275p。  
中村由克 1992 長野県上ノ原遺跡における細石器文化の遺構。考古学ジャーナル、342、42-44・344、33-36。  
野尻湖人類考古グループ 1987 II第2回～第4回野尻湖陸上発掘の考古学的成果。野尻湖遺跡群の旧石器文化1、21-28。  
野尻湖人類考古グループ 1994 野尻湖遺跡群における文化層と旧石器文化。野尻湖博物館研究報告、2、1-16。







1.清明台遺跡 調査の様子①



2.清明台遺跡 調査の様子②



3.清明台遺跡 遺物の分布(北から)



4.清明台遺跡 遺物の出土状況



5.清明台遺跡 遺物の出土状況(竈378周辺-遠景)



6.清明台遺跡 遺物の出土状況(竈378周辺-近景)



7.清明台遺跡 竈群1~3の検出状況(北から)



8.清明台遺跡 基本層序

## 写真図版 2



1.清明台遺跡 ナイフ形石器(図番号1)の出土状況



2.清明台遺跡 剥片(図番号31)の出土状況



3.清明台遺跡 二次加工のある剥片(図番号23)の出土状況



4.清明台遺跡 巖石(図番号39)の出土状況



5.海端遺跡 調査の様子



6.照月台遺跡 調査の様子



7.上ノ原遺跡 研究所建設予定地の調査の様子



8.上ノ原遺跡 下水道管敷設工事に伴う調査の様子



1.東茨道跡 調査の様子



2.柳原道跡 重機による埋め土の除去



3.柳原道跡 調査の様子



4.柳原道跡 トレンチ2の遺物出土状況(東から)



5.柳原道跡 土師師の出土状況



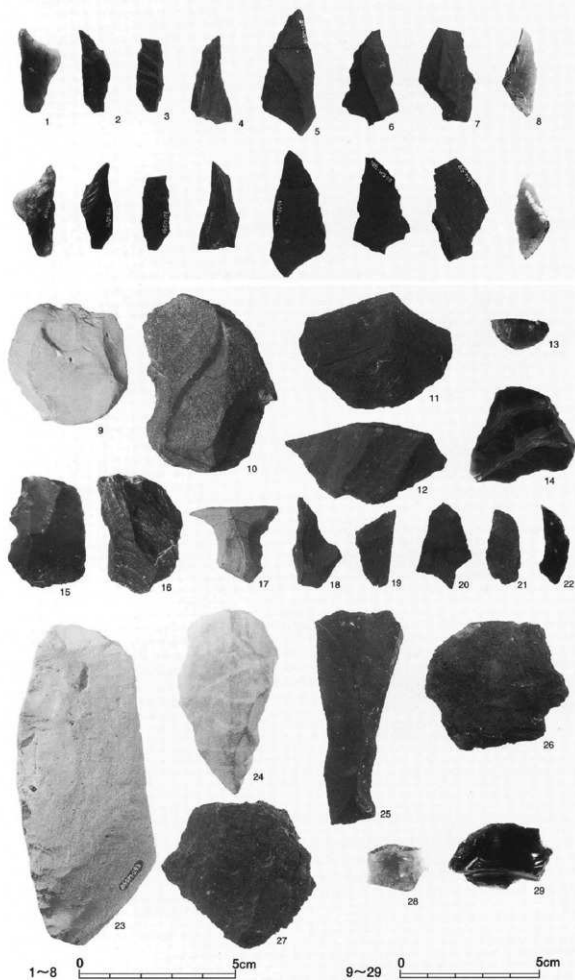
6.柳原道跡 トレンチ6の掘削後の状況



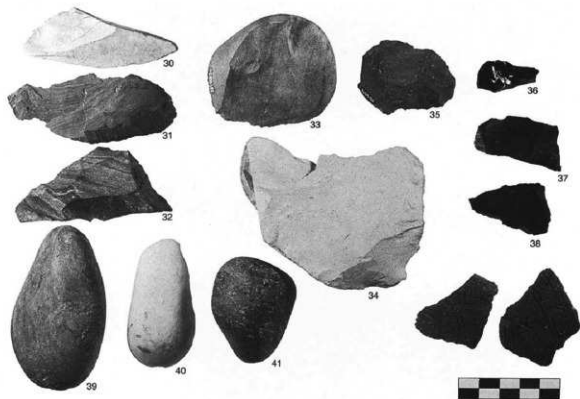
7.一里塚道跡 調査の様子



8.深討ノ原道跡 調査の様子



清明台遺跡の主な出土遺物①



1. 清明台遺跡の主な出土遺物②



2. 海端遺跡の出土遺物



4. 柳原遺跡の出土遺物



3. 照月台遺跡の出土遺物



5. 一里塚遺跡の出土遺物



6. 諏訪ノ原遺跡の出土遺物



報告書抄録

書名	平成18年度町内遺跡発掘調査報告書
副書名	清明台遺跡ほか
シリーズ名	信濃町の歴史文化財
シリーズ番号	
編集者名	渡辺哲也
編集機関	信濃町教育委員会
所在地	〒389-1305 長野県上水内郡信濃町柏原428-2 TEL: 026-255-5923
発行年月日	2007年(平成19年)3月30日

ふりがな 所在地	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物
清明台	長野県上水内郡信濃町 舟屋字高田197-303 大字	205834	39	36度 49分 50秒	138度 11分 21秒	20060920 20060929	23.5 (工事面積57)	個人住宅 建設	散布地	旧石器時代 縄文時代	礎石 6基 配石 1基 ナイフ形石器 土器など403点
墓 跡	長野県上水内郡信濃町 舟屋字上ノ原540-4,544-1 大字	205834	40	36度 49分 47秒	138度 12分 2秒	20060707	工事面積 324	個人住宅 建設	散布地		なし
給 湯	長野県上水内郡信濃町 舟屋字船橋344-5 大字	205834	32	36度 49分 46秒	138度 12分 20秒	20061107	3.9 (工事面積313)	倉庫建設	散布地	縄文時代 平安時代	縄文土器など 10点
墓 跡	長野県上水内郡信濃町 舟屋字船橋775-13 大字	205834	46	36度 49分 34秒	138度 11分 34秒	20060424 20060425	7.6 (工事面積971)	個人住宅 建設	散布地	平安時代	土師器など 3点
上ノ原	長野県上水内郡信濃町 船屋字183-2 大字	205834	65	36度 48分 58秒	138度 11分 50秒	20060922 20060923	38 (工事面積1386)	研究施設 建設	散布地		なし
上ノ原	長野県上水内郡信濃町 柏原183-2 大字	205834	55	36度 48分 58秒	138度 11分 50秒	20061107 20061110	4.8 (工事面積213)	下水道管 建設	散布地		なし
家 裏	長野県上水内郡信濃町 船屋字家裏334-2 大字	205834	70	36度 49分 39秒	138度 12分 10秒	20060630	工事面積 311	個人住宅 建設	散布地		なし
野良田池	長野県上水内郡信濃町 船屋字小丸山2470-17 大字	205834	67	36度 48分 38秒	138度 11分 38秒	20060705	工事面積 320	個人住宅 建設	散布地		なし
家 裏	長野県上水内郡信濃町 柏原466-27 大字	205834	70	36度 48分 17秒	138度 12分 33秒	20060920	7.2 (工事面積308)	個人住宅 建設	散布地		なし
墓 跡	長野県上水内郡信濃町 古高字藤原491-1 大字	205834	85	36度 47分 57秒	138度 12分 30秒	20061122 20061127	97.6	学校建設	散布地	平安時代 中世	土師器など 11点
一 号墳	長野県上水内郡信濃町 古高字全蔵066-6 大字	205834	86	36度 47分 50秒	138度 12分 41秒	20060926 20060930	8 (工事面積121)	個人住宅 建設	散布地	平安時代 近世	土師器など 16点
墓 跡	長野県上水内郡信濃町 富貴字富貴ノ原1906-9 大字	205834	102	36度 47分 57秒	138度 13分 20秒	20060913	5.1 (工事面積70)	個人住宅 建設	散布地	縄文時代 平安時代	土師器など 15点
墓 跡	長野県上水内郡信濃町 富貴字富貴ノ原2010-2 大字	205834	102	36度 47分 58秒	138度 13分 41秒	20060904	工事面積 700	倉庫建設	散布地		なし

平成18年度町内遺跡発掘調査報告書

発行 平成19年(2007)3月30日  
 発行者 信濃町教育委員会  
 〒389-1305  
 長野県上水内郡信濃町大字柏原428-2  
 TEL 026-255-5923  
 印刷 信毎書籍印刷株式会社  
 〒381-0037  
 長野県長野市西和田1-30-3  
 TEL 026-243-2105

2 0 0 7

Shinano-machi Board of Education,  
Kamiminochi-gun, Nagano, 389-1305 Japan.